

循環と共生の技術[Technology for Circulation and Co-existence]							
担当教員名[連絡先(TEL,研究室など)]							
野崎 勉[099-255-2556]							
E-Mail	nozaki_counselor@yahoo.co.jp			受講対象	全		
課程区分	共通教育	学科/科目・分野等	教養 1 分野	開講期	前期月曜 2	単位等	2
共同担当教員名							
教育目標のキーワード							
社会的貢献意識/コミュニケーション能力と相互理解							
学習目標(学生の達成 目標)							
文系・理系の学生を問わず。従前の技術開発のあり方を検証し、循環と共生の社会構築への新たな技術開発のあり方について理解する。							
授業概要(目的・内容・方法)							
産業革命以降、おびただしい化石燃料の多用と、科学技術の発展とともに地球温暖化を始めとする地球規模の環境変化が顕在化している。過去の蓄積としての化石燃料に依存しない自給自足を旨とする資源循環型社会を目指し、60億余の世界人口を養うにはステップアップした共生技術の開発と、自然との共生、国家や民族を越えた共生が不可欠である。さらに、技術の専門家、その適用者と利用者のコミュニケーションを深めるため、科学技術と社会について考え、市場では売り手と買い手の環境意識を高揚し、持続可能な発展社会での考え方やビジネスのあり方について講述する。							
授業計画(15回に分けて、回数、日付、授業内容、授業外活動など)							
1. ガイダンス 2. 地球環境問題 3. 循環と共生 4. これまでの技術(科学技術史概論) 5. これまでの技術(科学技術の光と影) 6. これからの技術(循環と共生の技術) 7. これからの技術(ゼロエミッション、インバース・マニュファクチャリング) 8. これからの技術(節度ある技術) 9. 環境ビジネスと環境経営 10. 技術倫理 11. 科学技術と社会(知識の乖離、科学技術ジャーナリズム) 12. 科学技術と社会(科学技術コミュニケーション) 13. 科学技術と社会(トランス・コミュニケーション、コンセンサ会議) 14. 科学技術と社会(暮らしの中のテクノロジー) 15. まとめ							
受講要件	特に制約なし。						
評価基準および方法	出席20%、中間課題提出物20%および期末テスト60%で総合的に判断します。 なお、出席が総授業数の3分の2未満の場合は評価対象外とします。						
教科書	野崎勉 『循環と共生の技術』鹿児島学術文化出版 2009年			参考書	野崎勉 『循環型共生社会をめざして、今、私たちにできること』 鹿児島学術文化出版、2008年		
授業時間外対応(オフィスアワー、授業後、学習シートなど)	【メール】随時			その他	特になし		